

さ ざ ん か

第 110 号、2011 年 1 月

みなさま、明けましておめでとうございます。昨年末の大雪で予定がおおはばに狂った方もいらっしゃるのではないのでしょうか。一寸先は闇、自然現象には勝てないということでしょうが、まあ、それも笑い話になってしまうのが人間のいいところでしょうね。

今年は九州新幹線の全面開通、というのが予定されている中では大きなイベントのひとつです。博多まで近くなりますが、また、一方では運賃も高くもなります。世の中、すべてトレードオフってことでしょう。そういえば、医療も含めた福祉も、高福祉高負担がいいのか、中福祉中負担がいいのか、低福祉低負担がいいのか、これから真剣に議論しなければならないのでしょうか、少なくとも高福祉、低負担はありえないという覚悟が必要なのでしょう。魔法の政治で、負担は少なくて十分な恩恵が得られる、ってことはないのでしょうかねえ。

さて、当院の外壁工事もほぼ終了し、美しくよみがえりました。あらたにイメージチェンジして気分一新頑張りたいとおもいます。さらに、今年は見かけだけでなく、中身も電子カルテ導入で新たなシステムが稼働します。職員の使い勝手のみでなく、患者さんへのサービス向上につながるように頑張りたいと思います。

人類の歴史に見ない超高齢化社会を迎えて、現世の最後の場所としての病院の存在についても考えることが多くなってきました。「終わりよければすべてよし」という終わり方ができればいいなと思います。ただ、必要な治療と無意味な延命との間の違いが難しいのもまた現実です。ひとそれぞれによって異なるでしょうから、一人一人に真剣に立ち向かう丁寧さと思いやる心が大切であると改めて感じる年の初めです。

今年もみなさまと共に歩む病院であり続けたいと思います。今年もよろしく願い致します。

俳句

西屋敷 喜美子

短日や 娘の家に 住むと言ふ

味噌汁に 小餅を入れて 雑煮とす

ストーブで 金時豆の やはらかき

病院からのお知らせ

* インフルエンザの予防接種はもうお済みですか。まだの方はお早目の接種をお勧めいたします。各科外来で実施しております。

* 肺炎ワクチンの予防接種もご希望の方は各科外来に申し出てください。予約制になっております。

* 亜急性期病床は 20 床分準備してあります。リハビリテーション中心で少し入院期間が長くなりそうな方向けの病室です。ぜひご利用ください。

なお、ご参考までに、当院の一般の方の平均在院日数は 20 日前後です。

* 寒い季節となってきました。感染予防のため、訪問される方はマスク着用をお願いいたします。

* 骨密度、測ってみられましたか？ご希望の方はいつでもできますので、各科窓口でおたずねください。適切な治療で骨粗しょう症の進行を予防できることがあります。

骨密度を上げるお薬を服用している方は、骨密度が上昇したかどうか確認してみたいかがでしょうか。骨折予防は寝たきり予防につながります。

骨年齢：あなたの骨は〇〇歳です。という表示が出ます。

* MRI で脳の検査をしてみませんか？目的は脳卒中や認知症（ボケ）の予防につながるからです。また、脳動脈瘤（くも膜下出血の原因となる）の発見にも威力を発揮します。脳ドック以外でも脳神経外科または神経内科外来にてご相談ください。

無症候性の病変（症状はないけど梗塞がある）がみつかると予防の治療を開始した方もおられます。寝たきりや認知症にならないためにも一度は検査されることをお勧めいたします。

* MRI は腰痛の検査にも威力を発揮します（脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアなど）。あるいは肩こりや手のしびれの原因を探すのにも有用です。精密検査希望の方は神経内科外来にてご相談下さい。

* 新式のマンモグラフィーが導入されております。乳がん検査に威力を発揮いたします。近年乳がんが増加傾向です。乳がんが気になる方は外科外来へお申し出ください。

県立北薩病院の理念

慈愛・協調・前進

短歌 瀬戸よし子

駐車場の混雑さけて宵祭り一日ずらして紅葉見に行く

大银杏散り重なりて一夜さに黄金の褥となりたる広場

人生を生きるむづかしさ 別府政隆

これまでの人生のなかで、考えてもみななかった。生きる事の難しさの中で真剣に思った事はなかった。我が家の生活しぶりを、振りかえり見る時、苦しく多難な日々を過ごして来た事を昨日のこのように懐かしく思い出しています。

私が幼少の頃、今は亡き父母が話してくれた一言が脳裏をかすめます。私の父は4歳の時、母と死別したという。その後は、父と姉達4人で生活していたが、当時、突然近所からの出火で我が家も全焼した。その後も2度目の出火で再び全焼し全財産を失ったと云う。父母の話では、苦しい生活の日々が続く、やがて家族全員で福岡の炭鉱へと出稼ぎに出た。来る日も、来る日も辛い日々が続く中、子供、家族の固い絆だけが、支えとなり生き甲斐をも見出してくれた。そして、心にゆとりが出来たと父母が語ってくれた事も、今は想いでの一つとなった。

それから数年来、一段落して、やがて家族は帰省した。以前、失った農業をも、少しづつ求め、近所や友人達との絆を大切に結いの作業をしながら、私達子供を育てた。

当時はすべて人力作業だった事も、現在は機械化作業であるが故に、人との触れ合いの場が少なくなった。そればかりか、70歳、80歳の老人たちが現役で農作業に精出している。若者達は皆会社出勤が多い。ましては休耕田も多いほど、今後農業経営者はどう生活していけと云うのであろうか。TPP自由化問題、年金問題、消費税等、苦境へと進むのではないか、不安ばかりが先を急ぐ。

10年後は路頭に迷う人も少なくないのではなからうか。そうしたなか、私達老人集いの場を利用して気兼ねなく語り合う場としてにぎやかに過ごすことで、お互い人の出逢いを大切にするため、また、ボケ防止のため、人との絆を大切にしながら、いつまでも元気でいたいものです。

民主主義が分からなくなる カラーマン（とその女）

つい先だって、阿久根市長がついにというべきか、とうとうというべきか、惜しくも、というべきか、まあ、言い方は人それぞれ沢山あるだろうから、事実だけ言うと、反市長派に負けて市長選に落選した。

田舎のことだから、細かい事情とかかなりドロドロした人間関係とかあるのだろうが、前市長の功績は、なんと云っても我々に地方政治とは？あるいは民主主義っていったい何なんだろう？と考えさせてくれたことではないだろうか。

前市長は、田舎では一般市民の倍以上の高給取りとみなされている市役所の職員の人のボーナスを半減した。人によってはざまあみろと快哉を叫んだだろうが、一方で削られる側の身になるとたまったものではない。いくら恵まれているといっても、半減はきつい。良し悪しは別にして、それらの収入がある程度定期的に入ってくるという前提で生活設計を立てているだろうから、半減はないだろうと他人ごとにしてもそう思う。

もちろん前市長による市職員と市議員に対する批判は、現在の日本全国の公務員や議会議員に対する批判とほぼ同様であり、彼のみがひとり卓見を述べているわけではない。

（そうよねえ。あちこちで公務員批判や議員の批判はやっているわね。これって、けっこう話題としては受けるみたいだね。）

戦後65年。お仕着せ民主主義の欺瞞がそろそろ破綻しはじめる時期なのだろうと思う。日本人が経済のこと以外、何も面倒なことは考えずにきた結果だ。阿久根と比べると、遥かに大規模ではあるが、名古屋でも同様の現象が起きている。（元祖大阪も似たようなもんだわね。首長と議会の対立。やっぱり、そろそろ来るべき時期なのかしら。260年続いた江戸幕府が次第に腐敗していったように、アメリカさんから押し付けられた戦後民主主義もそろそろ構造的に疲弊しはじめているのかしらね？）

一般に、市民に対して「税金を下げます。」「役所や議員の報酬を減らします」という約束（マニフェスト）をすれば、大多数の人（身内とか関係者でない人）はそれに積極的に賛成はしなくとも、あえて反対もしないであろう。というより、消極的賛成というカタチが大多数になりそうである。（もちろん、自分が損をしなければという前提があるでしょうね、当たり前だけど）

しかし、世の中、「トレードオフ」とか「過ぎたるは及ばざるがごとし」とかいう言葉が昔々からあるのだ。ローリスク・ハイリターンを求めると必ず、いつか誤った道を歩

むことになる。ハイリスク・ローリターンであれば改善の余地があるべく立ち上がる必要がある。低負担なら低福祉で我慢すべきであるし、高負担をすれば高福祉を求めて良いのである。低負担高福祉はありえない、はずである。

ある町の市民全員が生活保護で生活する、ということはある得ない話である。誰かが、何かを負担しなければならない。誰も税金を払わない社会は存在しえないであろう。農業者が食べ物を作るから作物はあるのである。いくらお金を積んでも、誰も米を作らなければコメは食べられないのだ。当たり前である。そういう当たり前のことが、段々わからなくなったりする。税金がなくても日銀がお札をしかるべく印刷すればカネの手当てはできるのではないかと言われたら、そうなんだ、となんだかわからないまま頷きかねない。

市長が気に入らなければ、リコールする。その根拠は民主主義である。もっといえば、現在のそれは民主主義というより多数優勢主義と云えそうである。とにかく票数を集めれば勝ちなのである。

多数主義は、ポピュリズムという言葉と通じる。おいしい話や耳触りの良い話で真意を覆い隠して人気取りをする姿勢のことだ、と思う。(ちなみに広辞苑では「人民主義」と書いてあるわ。それ以外の説明はない。意外と役に立たない辞書なのねえ)

減税とか、子ども手当とか、高校無償化とか、何の血も流さずにそういうことができるのであれば、だれも反対はしないであろうが、現実はきびしい。

(そうよねえ。貰う人がいるのは、払う人が居るからなんだからね。誰かが、税金を払って、誰かがその恩恵を受ける、というのが社会の基本だものね。恩恵を受けるのが市民であればそれを民主主義というのでしょね。恩恵を受けるのが領主だけであれば、それは封建主義や絶対主義、全体主義ってことね。共産主義も結局、恩恵を受けるのが一部の官僚のみになってしまったから崩壊したんだわ。それ考えると、悪漢金正日親子はすごいわねえ。ずっと国民からとりっぱなし、なんだものね。)

昔、実は今もそうであるが、仕事をせずに遊んで暮らしたいと、いかに切に思ったとか。好きな時に起きて、好きなものを食べ、好きな本を読み、好きなところに旅行し、美味しい酒に酔い、素敵な恋をして・・・

日本人全員がこういう考えだったらと想像するだけで、いや、すでに想像の範囲を超えている。好きなことだけをする人の食べ物は誰が作るのだろうか、誰が本を印刷してくれるのだろうか、だれが乗り物の運転をしてくれるのだろうか、誰がホテルで働いて

くれるのだろうか。

(民主主義の「民」はだ一れ？ってところね。意地悪のアホでも 100 人集まれば、真面目で賢い 99 人に勝てるというのが今の選挙制度だわ。)

一人はみんなのために、みんなは一人のために。というのはいかにもカッコいいがそれは、物事がうまくいっているという前提が必要である。一方で、救命艇の倫理は厳しい。99 人しか乗れないボートがあり、そこに 100 人の人間が居た時、どうするかという話である。

一人が犠牲になって残りの 99 人を助けるべきか、一人を犠牲にするくらいならみんな平等に沈没して 100 人とも海の藻屑になるべきか。世の中の理屈からすれば、当然、99 人を救うべきであり、そのことに対する異論は少ないと思う。問題は、犠牲になる一人が誰か？ということだ。もっとも年寄りの人？もっとも貧乏な人？もっとも知能指数の低い人？家族が居ない天涯孤独の人？障害のある人？暗い人？もっとも嫌われている人？あるいは、くじ引き？

一人がみんなのために犠牲になったとき、みんなは一人のために何ができるのだろうか。

一秒間に

外国為替市場において、16 億 7,000 万円（一日して 144 兆円）の巨額の外国為替取引が行われている。そのうちほとんどが実貿易とは直接関係のない取引で、その額は世界の貿易総額の 58 倍に相当する。

編集後記

霧島山新燃岳が噴火しました。ここ、北薩病院からもその迫力を伴った噴煙を見ることが出来ます。桜島の噴煙には見慣れた鹿児島県人ですが、新燃岳の噴煙に何かしら違和感と恐怖心を感じます。一方では出水で発生した鶏インフルエンザ感染症。ウイルスと火山。ミクロの世界と、マクロの世界で異変がおこりつつありますが、これらが大惨事の始まりではないことをひたすら祈るばかりです。(KT)